

## 充実の公開研究会 ありがとうございました

4年生の授業は、子どもたちが自分事で学ぶ姿に驚かされました。パブリックで自分たちの想いを伝えたつもりが、アンケート結果から保護者に十分に伝わっていないという「事実」に直面。そこで落ち込むのではなく、「ではどうしよう?」と新たな取り組みを考えていました。これまでも、自分たちで学びの計画を立て、進めてきているだけに、「次は?」「その後は」と自分たちで考えていました。まさに教師は、学びの方向性を整えるファシリテーターの役割。圧巻の授業でした。



協議会、指導助言でも、4年生の授業について、絶賛。「ここまで準備できないよね」「先生方がしっかりゴール像を意識しているから、子どもたちに委ねるところと導くところが明確になっているんだよね」「探究のサイクルが何サイクルも回っていて、すごい」「1時間の中でも、『できた』『わかった』と思ったら、また新たな『問い』が出ていてすごい」などたくさん価値付けていただきました。

公開研究会に向けての長い取り組み、そして南小の教職員全員で準備・運営・研究を進めてきたからこそ、充実の公開研究会になったのだと確信しています。前日準備、当日準備、片付けなども、「ここもした方が」など臨機応変に動いていただき、助けていただき、感謝しております。ありがとうございました。今回の公開研究会まで、そして公開研究会を通して学んだことを、次の授業にそれぞれつなげていきましょう。子どもたちの笑顔、活躍は、うれしいですね。

## 11月26日(水) ひょうげん部 授業研究会(佐々木先生)

子どもたちを共通の「土台」に乗せるしかけがいっぱい。問題把握の場面から「全員」が、同じ土台で考えていけるようにたくさんの「ワザ」がちりばめられていました。それだけでも、参観させていただいて学びがいっぱい。

全体協議の場では、答えが分かればO.Kではなく、問題を通して数学的な見方・考え方を養おうとされる授業者の意図がありました。一つの授業に対して、いくつもの子どもたちの反応に応じて授業案を準備されていて、教材研究の深さ、圧巻です。

